85464179959002

据付工事担当のかたへ

室内外ユニットには他に「電気工事担当のかたへ」「試運転担当のかたへ」の説明書が添付してあります。必ず参照してください。

1. 付属品

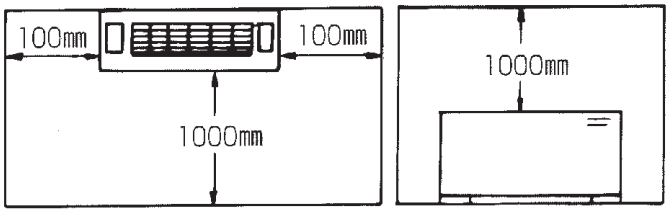
ペリメータ用床置・床置埋込形

	名　　称	形　　状	個数	備　　考
冷媒配管用	フレア接続配管		1	ガス管用
	フレア断熱材		2	ガス管・液管用
	断熱テープ（白色）		2	ガス管　液管用 フレアナット部用
	断熱テープ（黒色）		2	
	ビニールクランパー		7	ガス管用（2本）・液管用（2本） ドレン配管用（3本）
ドレン配管用	断熱テープ（黒色）		1	冷媒配管用より長い
	ドレン断熱材（表皮灰色）		1	

2. 据付場所

1．冷気（暖気）の循環しやすい場所に据付けてください。吹出口および吸込口の風の通路には障害物がないようにしてください。

〈平面〉　〈正面〉



サービススペース

⚠ 注意

2．**地震等で倒れないように、アンカーとの固定は必ず行ってください。転倒などによる事故の原因になることがあります。**

3．運転音が増大しないような場所に据付けてください。

4．必ず水準器で水平を確認してください。水平でない場合、水漏れの発生する恐れがあります。（レベル調節用ボルトで調節してください。）

⚠ 注意　特に下記のような場所への据付けは、避けてください。

1．油を多量に使用する中華料理店などの調理場や工場の機械設備の近くには、室内ユニットを据付けないでください。
油が熱交換器や、樹脂部品等に付着して、能力の低下、霧吹き、露飛びの発生、樹脂部品の変形や破損の原因になります。

2．可燃性ガスの発生、滞留、漏れのおそれのあるところは、避けてください。発火の原因になることがあります。

3．亜硫酸ガス、腐食性ガスの発生する場所は、避けてください。

4．高周波が発生する機械のあるところは避けてください。（ノイズによる誤作動を避けるため）

安全上のご注意

■据付工事、電気工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
■ここに示した注意事項は、「⚠警告」、「⚠注意」に区分していますが、いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。

⚠ 注意 取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

＊据え付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに“取扱説明書”にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また“据付工事担当のかたへ”、“電気工事担当のかたへ”は、“取扱説明書”と共にお客様で保管頂くように依頼してください。

⚠ 警 告

- 据付、電気工事は、販売店又は専門業者に依頼してください。
  ご自分で据え付け工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 据付工事は、“据付工事担当のかたへ”“電気工事担当のかたへ”に従って確実に行ってください。
  据え付けに不備があると、冷媒漏れ、水漏れ、感電、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」及び“据付工事担当のかたへ”“電気工事担当のかたへ”に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
  電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。
  限界濃度を超えない対策については販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。（ビル用マルチの場合）
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。
  強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。
  冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
  冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 注 意

- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わないでください。
  万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- ドレン配管は、“ドレン配管のしかた”に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。
- 冷媒配管の断熱は、“冷媒配管のしかた”に従って確実に断熱してください。
  断熱しないと、水漏れや、やけどの原因になることがあります。

3. 据付寸法と各部名称

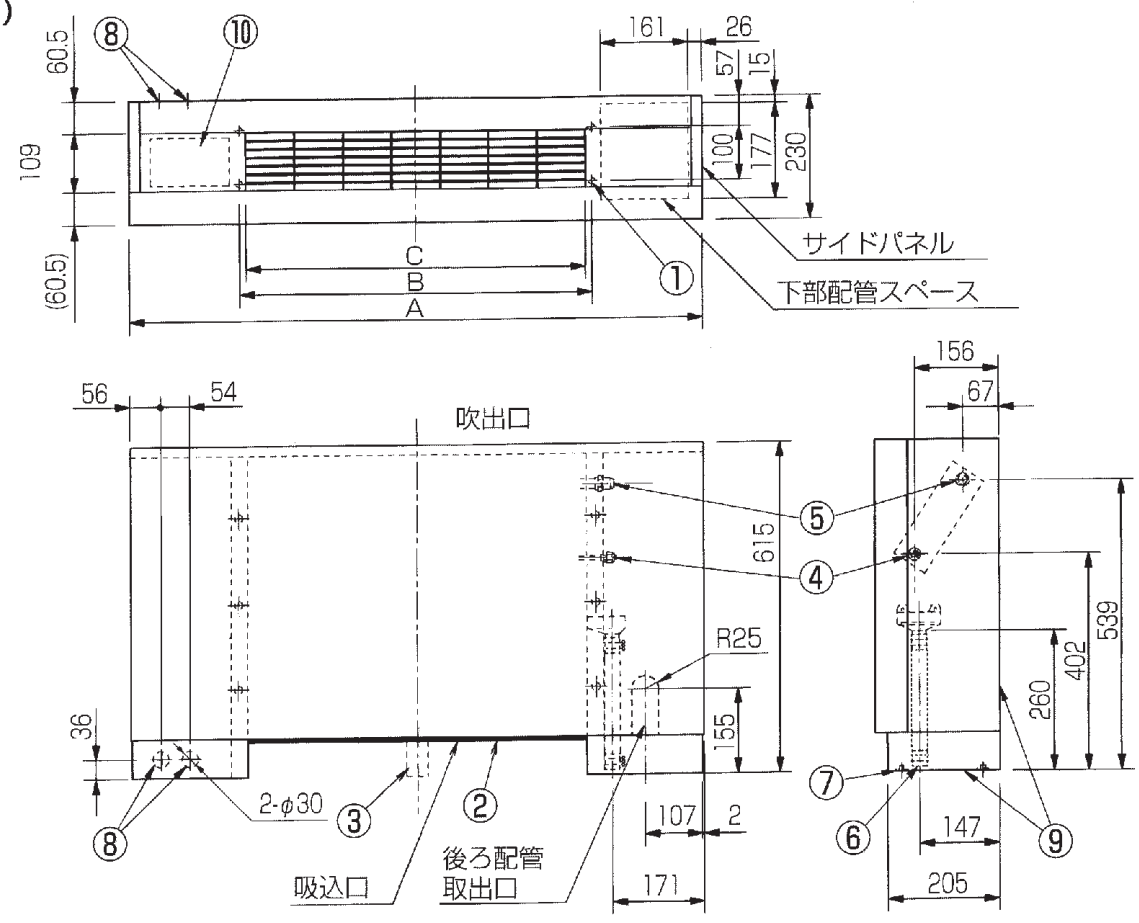
1．床置形（露出タイプ）

①φ12穴×4箇所（床面固定用）
②エアーフィルター
③台脚（80形のみ）
④冷媒配管接続継ぎ手（液管）
⑤冷媒配管接続継ぎ手（ガス管）
⑥レベル調節用ボルト
⑦ドレン接続口（VP20）
⑧電源取出し口（下方向、後方向）
⑨冷媒配管取出し口（下方向、後方向）
⑩リモコン（別売）取付け位置
（リモコンは居住空間にも取付け可能）

形式＼記号	A	B	C	液管	ガス管
28・36形	1065	665	632	6.35	12.7
45形	1170	770	737	6.35	12.7
56形	1380	980	947	6.35	12.7
71形	1380	980	947	9.52	15.88
80形	1800	1400	1367	9.52	15.88

床置形
（露出タイプ）

（単位：mm）



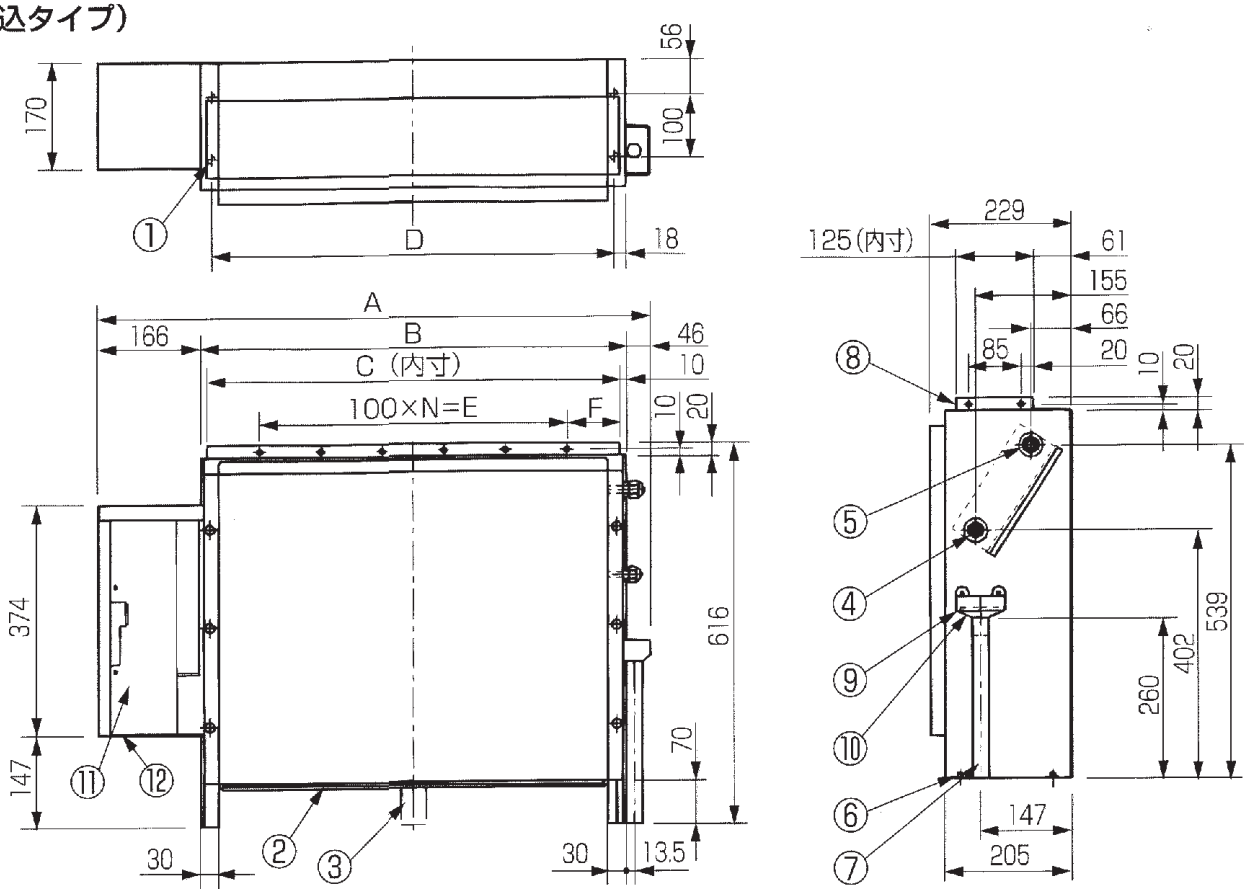
1．床置埋込形（埋込タイプ）

① φ12穴×4箇所（床面固定用）
② エアーフィルター
③ 台脚（80形のみ）
④ 冷媒配管接続継ぎ手（液管）
⑤ 冷媒配管接続継ぎ手（ガス管）
⑥ レベル調節用ボルト
⑦ ドレン接続口（VP20）
⑧ 吹出ダクト接続フランジ
⑨ ドレンフィルター
⑩ ドレンパン
⑪ 電装ボックス
⑫ 電源取入口

形式＼記号	A	B	C	D	E	F	N	液管	ガス管
28・36形	904	692	672	665	500	86	5	6.35	12.7
45形	1009	797	782	770	700	41	7	6.35	12.7
56形	1219	1007	1002	980	900	51	9	6.35	12.7
71形	1219	1007	1002	980	900	51	9	9.52	15.88
80形	1639	1427	1438	1400	1300	69	13	9.52	15.88

床置埋込形
（埋込タイプ）

（単位：mm）



（注意）電装ボックス、エアーフィルター、配管接続、ドレン部のメンテナンスができるよう、点検口を設けてください。

4. 前パネルの開け方と閉じ方の注意

床置形（露出タイプ）

前パネルには固定用のビスはありません。また前パネルには「露付防止ヒータ」が取りつけてあります。特にヒータの線を破損しないように以下の手順に従い、作業を行ってください。破損すると露付きや感電するおそれがあります。

【前パネルの開け方と閉じ方】

〈開け方〉

① A部（2ヵ所）を押えるようにして、B部（2ヵ所）を押し上げてください。

② 露付き防止ヒータの配線用コネクター（白色の4P）をはずしてください。

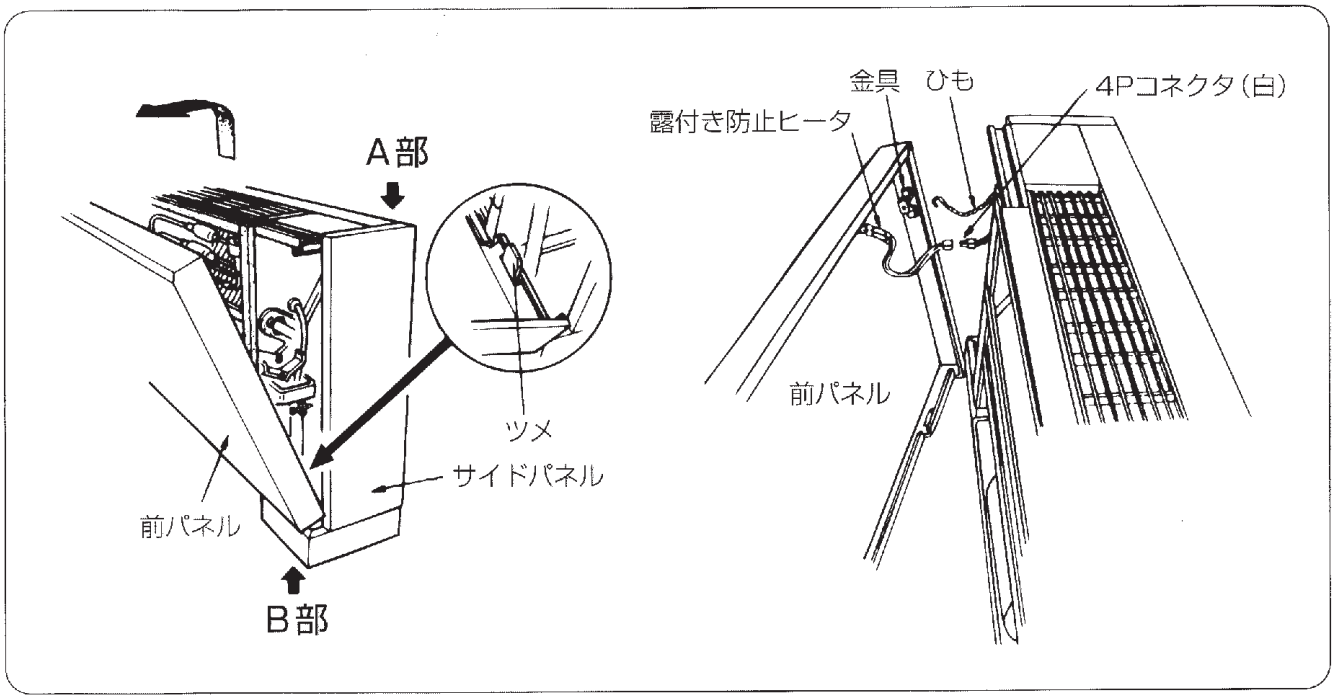
③ 本体と前パネルを接続している「ひも」を前パネルに取り付けた金具からはずしてください。

〈閉じ方〉

① 本体と前パネルを接続している「ひも」を前パネルに取り付けた金具に固定してください。

② 露付き防止ヒータの配線用コネクターを接続してください。

③ 本体下部にあるツメ（2または3ヵ所）と前パネル下部にある切り欠き穴を合わせ、上から押えるように固定してください。



5. 冷媒配管のしかた

1　ガス管は付属のフレア接続配管を用いて接続してください。
2　配管取出し方向は、下方向、後ろ方向の2方向を選択することができます
　床置形（露出タイプ）
　(1)後ろ方向の場合には背面パネルにある「後ろ配管取出口」を利用して配管してください。
　(2)下方向の場合には、図に示す寸法を参考にしてください。

⚠警告

3　配管接続口のフレアナットを外すとき、および配管接続後にフレアナットを締付けるときは、必ずスパナ2丁掛けで作業を行ってください。フレアナットの締め過ぎによるフレア部の破壊を防ぐため、下表を目安に締め付けてください。フレアナットを締め過ぎると、フレア部を破壊し、冷媒漏れによる酸欠事故の原因となります。

パ　イ　プ　径	締め付けトルク
φ6.35(1/4")	14～18N·m (140～180kgf·cm)
φ9.52(3/8")	34～42N·m (340～420kgf·cm)
φ12.70(1/2")	49～61N·m (490～610kgf·cm)
φ15.88(5/8")	68～82N·m (680～820kgf·cm)
φ19.05(3/4")	100～120N·m (1000～1200kgf·cm)

⚠注意

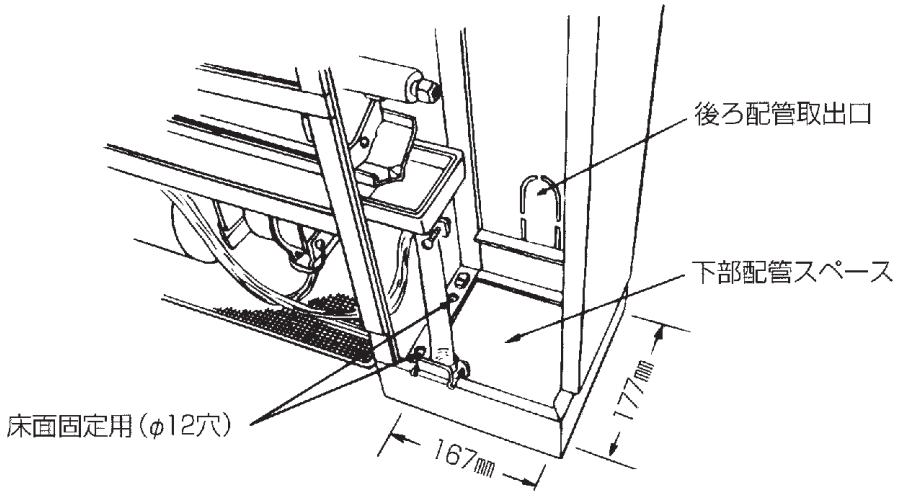
4　ガス管・液管とも必ず断熱を行ってください。

① フレアナット部には付属の断熱テープ(白色)を巻き付けてください。

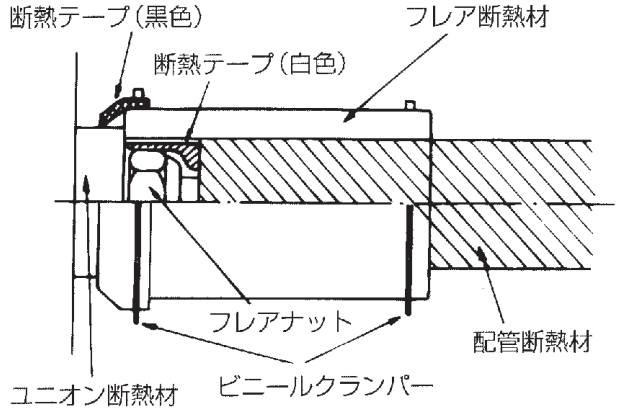
② 配管接続後、付属のフレア断熱材を巻き付けてください。

③ 最後に結合部のスキマに付属の断熱テープ(黒色)を巻付け、ビニールクランパで両端を固定してください。

〈配管のしかた〉



〈配管断熱のしかた〉



6. ドレン配管のしかた

⚠注意　不備があると、水漏れの原因になることがあります。

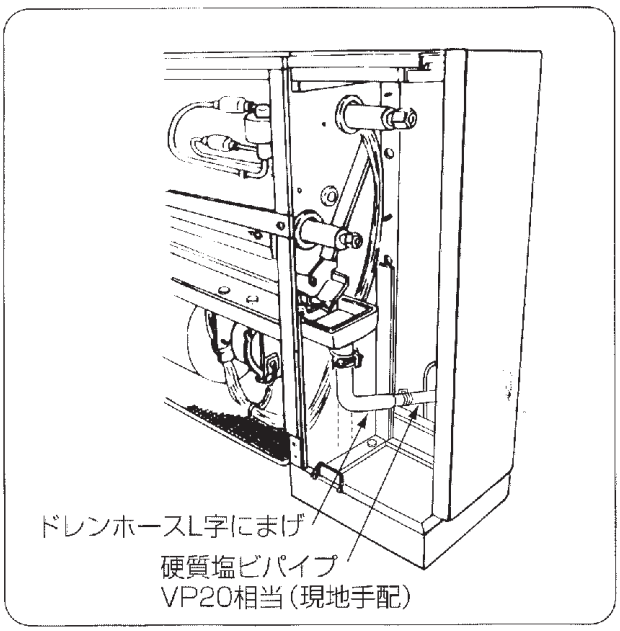
① ドレン配管を後ろ取出しにする場合には、本体に取付けてあるドレンホースをL字に曲げて、ドレン配管（現地手配）を接続し、後ろ面の配管取出口からドレン排水するようにしてください。ドレン配管には硬質塩ビパイプVP20を使ってください。

② ドレン配管は必ず下り勾配（1/100以上）とし、トラップ、配管のつぶれ等がないようにしてください。

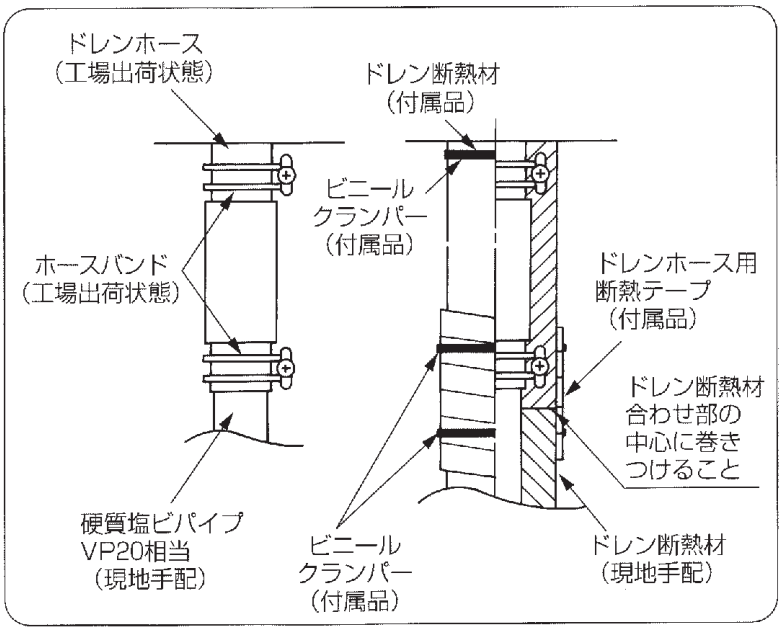
③ ドレン配管にも必ず断熱するようにしてください。

④ 配管工事終了後、排水がうまく行われるかドレンパンに注水して確認してください。

⑤ ドレンパンの排水口のまわりにごみづまりがないように清掃してください。



〈ドレン後ろ取り出しの場合〉



〈ドレン配管の断熱のしかた〉

7. リモコンの本体組込みのしかた

床置形（露出タイプ）

床置形は、B形までのリモコン（別売：ワイヤードリモコン）を本体に組込み可能です。
E形リモコンをご利用の場合は、外付けのみとなります。

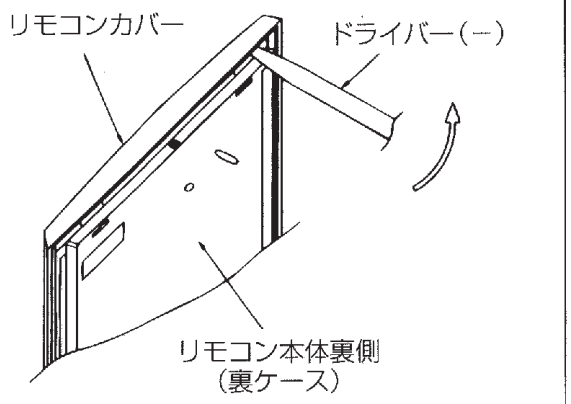
① 別売リモコンのカバーをはずしてください。（右A図）

② 前パネルを開けて、図の2つのビスをはずし、固定金具をはずしてください。（右B図）

③ リモコンを図のように本体の取付けスペースに押し込んでください。
この時2本の配線はリモコン裏面の中央に寄せ、配線取出口から出るようにしてください。

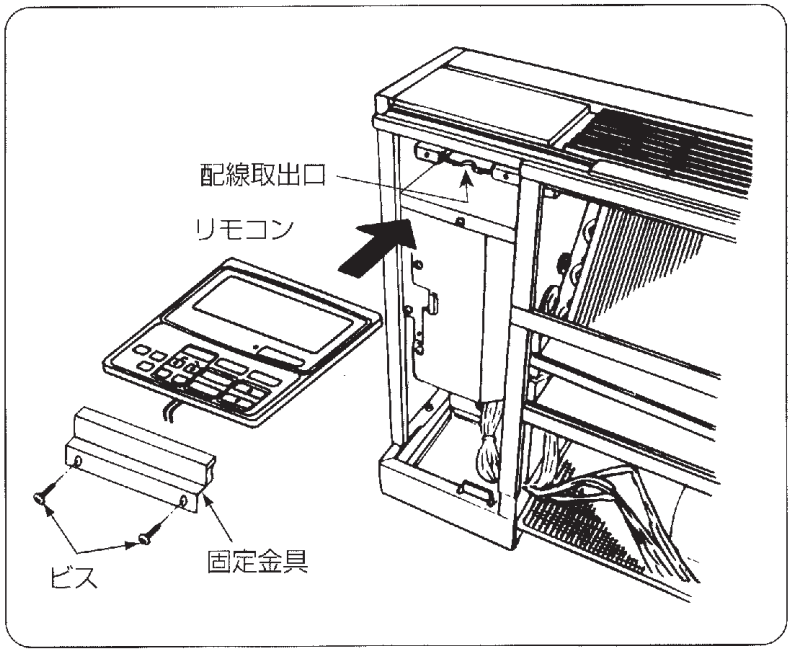
（注意）
「親子リモコン制御」などを行うためには、裏ケースを外して内部のリモコンアドレスコネクターを差換えてください。（詳細はリモコンに付属されている説明書を参照）
リモコンを組込んだあとではこの作業はできません。これらの設定が終了してから組み付けてください。

④ 固定金具を取付けてください。



※リモコンカバーと本体の間の図の位置にマイナスドライバーの先端を差し込み、矢印方向に回転させる。

A〈リモコンカバーの外しかた〉

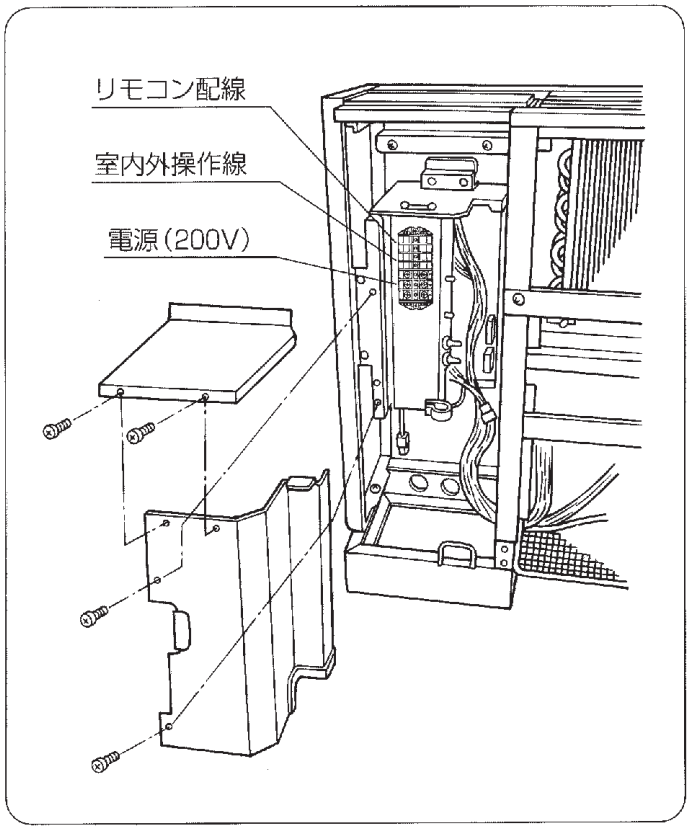


B〈リモコンの組み込みかた〉

8. 電源配線のしかた

電源配線、室内外操作線、リモコン配線は図の位置に行ってください。「電気工事担当のかたへ」を参照ください。

(1)リモコン線は無極性です。



〈配線位置〉

9. その他の注意事項

① 据付けに当っては、「高圧ガス保安法」「冷凍保安規則」および高圧ガス保安協会制定の「冷凍装置の施設基準」を満たすよう設置してください。

② 電気工事および接地工事は「電気設備に関する技術基準」「内線規定」およびパッケージエアコンの電源仕様(電気工事担当のかたへ)に従ってください。